

第3回吉野川市鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会会議録

日時 令和6年10月28日(月)
午後7時～午後8時50分
場所 吉野川市役所 大会議室

会議次第

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
(1) 提言書(案)の検討について
- 4 その他

会議の経過

1開会 (事務局)	【会議資料について確認】 会議資料 「会議次第」 「鴨島東部地区における小中学校のあり方に関する提言書【案】」 「関連資料1～4」
2委員長あいさつ (委員長)	【委員長あいさつ】
(事務局)	議事に入る前に、本日の出席委員数についてご報告いたします。 本日の出席委員は13名で定足数に達しており、本委員会が成立していることをご報告いたします。 それでは、お手元の会議次第に沿って進めて参ります。 議事の進行につきましては、規程により委員長が議長となりますので、よろしくお願いたします。
3議事 (委員長)	それでは議事に入りたいと思います。 先ほど申し上げましたとおり、本日の議題は、「提言書(案)の検討について」でございます。 それでは事務局から説明をお願いいたします。
(事務局)	【提言書(案)についての説明】
(委員長)	ただいま事務局からこれまでの会議での意見等を基に作成した提言書(案)の内容について説明がございました。 この(案)につきましては、あくまでもたたき台でございます。 委員の皆様のご意見を基に修正を加えていき、決定したいと考えております。

また、今、事務局からの説明と重なる点もありますが、前回の第 2 回会議において学校を移ることとなるかもしれない鴨島東中学校の生徒が、肩身の狭い思いをすることがないように、統合後の体制等についてのご意見をいただきましたが、ただいま事務局から本委員会が東部地区の小中学校のあり方を検討する場であることから、提言書において、統合後の体制等まで言及することは難しいのではないかと説明がございました。

この提言書（案）の冒頭にありますとおり、本委員会へ依頼された項目は、「学校再編の是非」及び「望ましい教育環境の実現に向けて必要な事項」についてであることに加え、本委員会には鴨島第一中学校の関係者も参加していないことから、やはり、統合後の体制につきましては、教育委員会の方針、決定をもとに、統合に向けた準備組織の中で協議されていくべきものであると考えます。

本日の会議では、そのような前提を踏まえ、協議いただきたく思います。

それではもうすでに事務局から、委員の皆様方に資料が提示されていると思いますので、この提言書案の内容に関し、委員の皆様方のご意見をお伺いしたいと思います。

今説明させていただいたことを踏まえて、ご意見をお願いしたいと思います。それでは、どなたからでも結構ですので、お願いします。

(委員) 事前に送っていただいた資料で、お聞きしようと思っていたのですが、今の説明で十分納得できました。この検討委員会で、前にも申し上げたとおり、統合した場合に、鴨島東中学校の生徒があまりストレスを感じないような、これは鴨島第一中学校の生徒も同じだと思いますが、ストレスを感じないような体制というのが、この 3 (1) で準備組織の中で対応するというので、書かれておりますし、その通り対応していただけたらと思います。

(委員長) ありがとうございます。どなたかご意見ございませんか。

(委員) 2 点ございます。1 点目、提言の理由のところの (1) の 1 番下の行です。下から 2 行目の「現状では専任の教員が配置できない教科は、免許外指導により対応している」ということなのですが、文科省では、免許外指導という言葉はあまり使っていないで、免許外教科担任制度ということだったので、「免許外教科担任により対応している」と正式名称を使った方が、理解しやすいと思いました。

そうするとその次のページの 1 行目にも、「免許外指導」という言葉が出てきます。ここも、「免許外教科担任による指導を行う」とか、「免許外指導」と一言で言ってしまうと、臨時免許状とか他のことも考えられたりすると思いました。

それともう 1 点は今のところの続きなのですが、当事者である児童生徒の保護者の意識は、短いけれども適切にまとめられていることを考えると、やはり当事者の子どもたちの意見も好意的だったところを入れた方が良いのではないかと思います。またご意見をいただきながら、お考えいただければと思います。他はよくまとまっていて、資料も適切でよく分かりました。

(委員長) ありがとうございます。

委員から「免許外指導」のところで訂正が 2 箇所ありました。それが 1 点と、子どもたちの意見も入れるということで、この 2 点が意見として出されましたが、この点についていかがでしょうか。今の保護者の意識のところ、子どもたちの意見も入れたらどうかという意見だったと思いますが、いかがでしょうか。この件に関しまして、委員のご意見をお聞きかせください。

- (委員) 提言の理由の一番最初ですが、課題が生じているわけではないんです。そもそも、これは何の課題ですか。
- (事務局) 例えば、前回の資料にもありましたが、少人数化の結果、募集停止となった部活動が生じたり、選択の幅が狭まったり、あと、学校の方で、従来やっていたような学習活動の中で、例えば単学級になったことで、工夫をせざるを得ないような状況になった、課題という捉え方にもよりますが、そういった状況になったことで工夫して対応されているということですので、その原因が1つの課題と捉えてここでは表現をさせていただきます。
- (委員) 分かりますが、何か責められているような気がして、全力でやっているつもりなのですが、これを課題と捉えられると課題改善せざるを得ない現状がどうしても生まれてしまうのかなと。学校としては全然課題と捉えていなくて創意工夫という形で捉えて、課題という表現は「課題＝問題」と捉えられないのかなと心配をしています。あと、「少子化の進行等」の「等」は一体何かなど。何とか等というのを付けるのはよく分かりますが、「少子化進行における」ではないですか。同じことを2回も3回も言っている気がしていて、少し表現的に分かりにくいなど。あと、うちは課題じゃない。課題は違う表現でお願いします。
- (事務局) 決してそういう意図があるものではないのですが、例えば表現としましては、先ほど申しましたように部活動については従来の選択肢から数が減ったという事実がございますし、上3行を削るという選択肢もあるかとは思いますが。
- (委員) 小学校の方も、「小中学校の現状は課題が生じている。」という文章自体が、まるで当てはまっていないというのが1点。それと、提言のところで「牛島小学校及び森山小学校は、直ちに学校再編の必要性はない。」では駄目ですか。「必要性はないが、今後の児童の推移を注視していく」とするのであれば、そこが引っかかりました。不安感をあおると言うのでしょうか。提言にもしこれを入れるのであれば、後の方の文章の説明のところ、例えば、2ページ目の(2)の上のところ児童数が減少傾向にあることについては、市内他の小学校と同様に変わりがないためとか、森山と牛島がというのがちょっと引っかかってしまって。今まで小学校については、あまり議論もされてなくて、直ちに学校再編の必要性はないというのが、この会での共通理解だったような気がします。今後のことを書きすぎると、不安感があるのと、先ほどの文章もちょうと引っかかったかなというところ。書かないといけない文章があることは分かりますが、そうなる中での説明の方を今おっしゃったように3行省いていただくとか、全部主語がかかってくるので、「小中学校の現状は、課題が生じている。」「学校における学習活動のみならず」今学習活動はないし、部活動については小学校は関係ないので、文章が1つになりすぎて読み手によっては、ちょっと不安に思ってしまう。提言から、文章を取り出していただけたらと思いました。
- (事務局) 提言のところの「牛島小学校及び森山小学校は、直ちに学校再編の必要性はない。」にしましょうか。理由(1)の冒頭3行を削除。今、委員が言われた最後のくだりで、「直ちに学校再編を行う必要性はないと考える。」で終わりにします。
- (委員) それでは先ほどの課題としては、例えば「(1) 鴨島東部地区における小中学校の現

状と今後の展望」とか、前向きな感じにするというのはどうでしょうか。

(委員長) はい、今のご意見どうでしょうか。

(委員) 委員がおっしゃったように、現状を簡単に言えば、児童数、生徒数が減っているということだけだと思います。それぞれにおいて工夫して、現在、学校運営をされているということも、はっきりと書いていただいた方が良いけど、統合する理由もはっきりしていないといけないと思います。統合する東部地区の意見だけをまとめて、一中校区の考えを何も入れずに、東部地区だけでの意見を出しているということですから、あまり深く入って書くのは、この提言を出した後、統合する中で、具体的な話をするということでない。先走って、一中校区の方の意見も全然聞かずに、こちらが東中校区の意見だけで提言するというのも、統合を希望するに当たり、何か非常に矛盾していると思います。どんな統合を希望するのかということになると、ものすごく書くのが、一方的な偏った状態のものになりかねないと思います。これはなぜここで東部地区のあり方を検討するのかということになるのですが、最初の提言にありますように、望ましい教育環境というところだけを絞って考えていかないと、後のことは、この場では、書き込むのは非常に難しいのではないかと私は思います。ですから、ここに書かれていること以上のことを、私としては統合後のことも、手順とか色々なことも知った上で、東部地区の意見をまとめるというのであれば、しやすいと思います。先の見通しが無い状態で、東部地区だけの意見をまとめるというのは、ちょっと何かしっくりいかないなというところがある。そういう思いがありました。

(委員長) ただいまの意見について、他の委員さんどうでしょうか。

提言のところで2点書かれています。まず「牛島小学校及び森山小学校は直ちに学校再編の必要性はない。」ということで、留めるという意見もございましたが、どうでしょうか。

それぞれ学校は、創意工夫をしてやっているが「課題」という文言が出てきている、そういったこととか色々ご意見が出てきていますが、ご意見がありましたらお願いします。

(委員) この望ましい教育環境というのが最初に気付けば良かったのですが、決して今望ましくない環境ではなくて、東中学校はPBSとかすぐ県内でも、去年ゴールドの賞も貰うぐらい一番にやってくれている学校です。この部分、線引きはすぐ難しいと思いますが、一番最初にこの、より望ましい教育環境になるためにはというところで、考えていけば良かったのかなと思います。

今日言おうと思っていたことは、提言の中で、鴨島東中学校は鴨島第一中学校と統合して、生徒にとってより望ましい教育環境を実現する。この「より」と付けるのが良いのではないかと思います。委員が言ったように、課題というところもちよっと気になったので、先ほどおっしゃってくれた現状と今後の展望という前向きな形で示すのが良いかなと思いました。

あと、この提言の構成なのですが、題材が東部地区における小中学校のあり方に関する提言案があって、依頼を受けた次の項目について、多分最初にこの「2 提言の理由」を入れたら良いと思います。現状等を踏まえて、当委員会の検討経過を以下のとおり提言するという、現状をみんなで共有してから提言に持って行かなくてはならないと思うので、この「2 提言の理由」を本当は1にするべきではないかなと思いました。「提言の理由」があって、次に「提言」があって、その提言が提言依頼の(1)

に相当すると思います。提言依頼(1)の今後の児童生徒数の状況とか、是非についてがこの四角の答えで、提言依頼(2)の答えが、3の「統合に当たっての留意事項」が「統合よっての留意事項」になると思います。そのように整理したら、すごく読みやすくなるのではないかと思います。

最初に、統合後の体制への言及は難しいということで、その部分をすごく考えていたので、これは今日言えないということで、もう言いませんが、事前にお知らせしてくれた方が良かったなと思います。ということで(2)に対する提言が「統合に当たっての留意事項」になって、委員からの意見が(2)に対する統合に当たっての留意事項に、どんどん入っていくと思います。入ってはいつているけど、その他のところが何も提言の事項に入っていないので、おっしゃってた統合の体制に言及は難しいという部分になるかもしれませんが、でも、統合に当たっての留意事項、(2)に対する提言のところを話し合いするのかなど思っていたのですが。というところで、流れを整理すると、提言書を出したときの保護者の方とか、子どもたちも、1についてはこのことについての提言、2についてはこのことについての提言、というのも分かりやすいかと思いました。

(委員長) 今、提言の順番、流れであるとか、現在、すごく子どもたちが頑張っている状況で、「望ましい教育環境」という表現に抵抗がある。だから「より望ましい教育環境」という表現にするとか、そういうことでしたが、この提言書の流れについては、事務局どうでしょうか。

(事務局) たたき台ですので、この案は委員の皆さんで出していただいた意見で、修正いたしますので、今日の会議の中でその辺も含めてお話いただければと思います。

(委員長) 今、委員から保護者や子どもたちもこれを見たときにわかりやすいということで、この流れをもう少し考えた方が良いのではないかとのご意見でしたが、他の委員さん、どうでしょうか。

(委員) 私の意見はちょっとまとまっていなかったのですが、今、委員の話聞いて、確かにその流れ、その通りだなと感じました。これまで、私たち委員は、児童生徒のアンケートと保護者のアンケートを基に、メリット・デメリットを話してきました。メリット・デメリットについては、私たちがそのアンケートから感じ取って、上げてきたもの、そしてデメリットをなくしていった統合ということで、流れてきたと思います。ですので、ここの提言の理由に書かれている現状と課題という言葉は確かに委員の話聞いて、確かに現状と課題という言葉ではないけれども、人数が減少している中で、やはり今後、学校における学習活動であるとか、学校生活、人間関係も含めて、あるいは部活動などについて心配が生じているのは、現状だと思います。保護者にも子どもたちにも、やはりアンケートからそういう心配は読み取れるのではないかとということで、「現在課題である」ではなくて、今後そういうことが生じる心配があるみたいなニュアンスでいけばいいかなと、教育活動における現状と課題とはまた全然変わってくると思いますので、そういうことを感じました。ですので、課題ではないけど、そういう心配があるので、学校再編、統合なんだというところを挙げていって、だからこの提言が、生まれたという流れに持っていったら良いのではないかと思います。

(委員長) その提言の理由のところ、課題ということではなく、今後、現状からこのような

心配事があると、それは今後どういうふうに、持っていくかということで、変えたらどうでしょうかというご意見だったのですが、その他の委員さんはどうでしょうか。

(委員) 考えがまとまっているわけではないのですが、課題もないのにやるのかという話ですよね。やはり、先生方がおっしゃるのはもちろんとてもよく分かって、そういう意味での問題があるということではなくて、子どもが減ってきていることでなかなか先生方の工夫で、今のところ、色々なことがやっけていけるけれども、近い将来学校運営もなかなか、その創意工夫だけではできない、解決できないというところが課題なのだと思います。だから、課題という言葉は先生方に逆らうみたいで申し訳ないですが、課題がないというのは、どうなんだろうと。今やっけていっしやる学校運営そのものの中での課題ではなくて、もう近い将来必ずそういう状況になって、学校運営が厳しくなるということについてそれが課題なはずであって、この教育行政の方としてもその課題がないのにわざわざエネルギーを使って、2つの学校を1つにするというのは、ものすごいエネルギーがいるはずの事であって、それは学校運営上なおこれから厳しくなるということが、課題なのであって、その課題という言葉は消すことについては、どうなのかなと思います。

(委員長) 意見がございましたが、今現在の課題ではなくて、将来を見越した課題という捉え方。将来を見越した、課題が発生するであろうから、統合をしていくという目線ですね。

(委員) 課題というかその学校運営が、もともと厳しくて、非常に厳しくなるというのはもう見えているわけです。数が読めるわけですから、だからそのことが課題であって、先生方の今やっけていることが課題なわけでは全然ないわけですから、環境がそうやっていくという、そういう課題ですから、その現状と課題という言い方は、間違っていないと思います。

(委員長) それぞれ各学校で、先生方、校長先生方、PTAの関係の方々、非常に色々学校教育について頑張っけていっしやる中で、課題ということが出てきたので、そこら辺で考えられたと思いますが、将来を見越しての、こういうものがやってくるだろうというような趣旨での課題ということで、課題という言葉を残した方が良いということですよ。

(委員) 先生方のご努力をもってしても、無理になるということでそこが課題ですよ。

(委員) 確かに課題があるからするということであれば、例えば今後想定される課題とか、そういう表現で、今はいけるんだということではいかがでしょうか。

(委員) 私も今までのご意見をお聞きして、先程、この提言書の順番の話もあったのですが、提言書として一般に出す場合に、やはりストレートに東部地区の小中学校のあり方ということであれば、今後の児童生徒数の状況、地理的状況を踏まえた学校再編の是非についてという提言を求められた趣旨から、それについてやはり一番に答えることが必要なこと。やっけていく上では先ほど申し上げたその他の望ましい環境を整えていくという提言をした方が、教育委員会の方から提言を求められて、それについて、提言を出すという、この委員会の趣旨からいくと、求められたことにストレートに先に答えて、それでそれを実現するために、こういうところに十分配慮してほしい、という書

き方の方が、提言書としては良いのではないかという気がします。

それと、今の、課題のところも、もちろん先生方が一生懸命工夫して、課題を克服して今やっておられるのですが、例えば活動を行う上で、現状、いろいろ工夫して克服しているけれども将来的には、課題が生じる懸念がある、というふうな、その下の方に、先ほど出た免許外指導により対応とありますが、その対応をしていることが、実際には本当は課題というか工夫してやっているの、それはそれで十分やっていたている。ここにはそういう対応をしていることを書いているけれども今後、さらにということに繋がっていつているので、先生方、今現在課題が生じていると言い切られると、それは確かに今色々工夫して、努力されて、対応していただいているので、今現在はそういうことだけれども、少し将来的には懸念されるというふうな書き方で、その現状の問題点はやはり挙げた方が、今回の提言の裏付けがよく分かるのではないかなという気がします。

(委員長) まず、ご意見といたしましては提言の順番が出てきました。それと、現状とその課題ということについて、どういうふうに行けば良いかということが出てきました。この課題という言葉に対して、色々今ご意見いただいているのですが、そういった点について委員さん、どうでしょうか。まずこの提言の順序。提言書は分かりやすい提言書を作り上げるためにはこの順序は、どういうふうにしたら良いでしょうか。ご意見をいただければと思います。

(委員) 最初、望ましい教育環境とは何だろうとなりました。後々見ていたらここに出てきていて、何を書いているかという、一定の集団規模が確保されることが望ましいというのが、結論として書かれているのですが、この望ましい教育環境というのは曖昧な言葉になっていて、これを最初に出すとまずいのではないかと思います。まず最初の3番目に出てくるのですが、ここは最初に読まないで伝わらないというか、定義がないものを最初に出しているという感覚になるので、今望ましくないのかみたいになってしまうので、僕の読み取りがまずいかもしれませんが、そう思ったので、そういう提案をさせていただいたところです。順番を議論して皆さんの意見でまとまったら良いと思うので、そういった感覚というか、読んだときの感想だったということです。

(委員長) この意見についてどうでしょうか。

(委員) 先程、言いかけていたことは「必要性はない。」ということで切ってもらうのと、この文章については、皆さんおっしゃってくれたように今後の展望については、こういう課題があるという文章に直していただくと、ここのところはもうそれで片付くと思います。課題という言葉は入るのですが、「今後起こる課題」に直していただけたら先ほど委員もおっしゃっていたと思いますが、今後は課題が生じてくる、その上でと。この文章そのまま提言されると、今、課題が生じているのかとなってしまいますので、文章的な表現だと思います。

(委員) これから教育委員会としたら、地元で説明したり、あるいは議会でもちゃんと説明しないとイケないので、そうしたときにこの問題は急ぐから、いつまでというのがあるかどうか分からないですが、早急に解決するんだというのが、問題意識としてあるはず。だから、そのところで先生方、申し訳ないけどその課題というのはやはりなければ、課題をきちっと認識して、教育委員会は課題をきちっと認識していると

いうことを説明しなければ、議会だって、住民だって、そのところは、教育委員会がちゃんと考えているということが言えないといけないと思います。だとすれば、その現状をきっちり認識して、課題はここにある、だから、早急に統合するんだという結論にはなりにくいのではないかと思います。だから、やはり現状と課題というのはやはり外せない言葉でないかなと思っています。

(委員長) 色々ご意見をいただいているのですが、統合という形をとるということにはやはり課題がないと統合へと進まないわけです。だからやはり課題というのは現状、非常に学校現場頑張ってくださいと思っていると思いますが、その中で、いろいろ課題はあると思います。それが将来を見越したときに、また様々な課題が出てくるので、今現状このような課題があるということで残して、次に進んでいるということをややはり書いた方がよいのではないかというご意見だったと思います。どうでしょうか。

(委員) これを先に送っていただいて読んできたつもりなのですが、勉強になりました。皆さんの捉え方を聞いて、現状と課題というところにターゲットが絞られているようなので、そこだけを言いますと、現状と課題と言ったらこの現状と課題が並列になっているように、思いまして、今のお話を聞いててもその通りだなとは思いました。それを聞きながらも私は、それを並列には許せないので、現状とやはり、先ほど委員おっしゃったようなことを少しもじらせてもらおうと、今後の課題というか、課題はあるとしても、何かこう、現状の課題と言うと今何か問題でも起きているのかというふうに、すごい問題とは言いませんが、何かあるんだというふうにも捉えかねないので、やはり今後の課題というような言葉を、自分は付けたい。課題というのはやはり、大切な言葉だなとも思います。ただ、現状と課題を並立してしまうと、ちょっと捉える方としたら少し違うようにも感じました。このことについてはとにかく皆さんの意見を聞きながら、勉強になりました。

(委員) 元に戻って、私が再編統合になる条件として、以前から聞いておりましたのが、中学校については、1 学級になったときという前提があって、小学校については、複式が見込まれるときという基準があったと思います。その基準は、今ももちろんぶれてないと思いますし、もう東中学校が 1 学級になってくるところからスタートして、その現状から、想定される今後の課題ということで話を進めていくということで、委員がおっしゃったように、確かに課題がないところは今納得をしました。やはり課題とは、この私達の教育、学校経営とか、そういうふうなものにおける課題ではなくて、人数の減少によって起きてくる今後の課題ということで、もう課題を入れるというのはもう私は納得をしましたのでその方向で良いかなと思いますし、人数の減少により生じる課題というのを吟味して、それからメリット・デメリットを考えていったということなので、この文言的なところは将来的に生じる課題なので、今後の課題という表現にすれば良いのではないかとはい思うのですが、どうでしょうか。

(委員) 内心はその現状と課題とワンセットだと思いつつ、現場の先生方に抵抗があるのが一番いけないと思うので、例えば言葉のあやかかもしれませんが、タイトルは (1) の中学校の現状分析とか、というようなところで、そうすると人数がどうなっているかという話になってきて、読めばその学校運営にも支障が生じ始めていると、これ誰が見ても、課題の 1 つですよね。早急に改善を図る必要があると。これ処方箋かもしれませんが、これも、そういった課題があるというのをここに書いてあるので、課題という言葉を使わずに、使いたくないということがもしあるなら、言葉のあやかもし

れませんが、現状分析というタイトルにするのもありかなというふうに思いました。
教育委員会的に問題はないですか。

(事務局) あくまでもこれは提言書ですので、委員会の意向をここにいうものではございませんので、皆さんでお話いただければと思います。

(委員長) 東部地区における小中学校の現状分析でしょうか。

(委員) はい。現状分析みたいな表現を使うというのもありかなと。少しすっきりしません。

(委員) これ読むと、その主語述語だけ拾うと、「小中学校の現状は課題が生じている」と読めるじゃないですか。これ主語述語の関係で言うと、「現状は課題が生じている。」いや全然生じてないと、学校としては言いたいです。色んな委員さんがおっしゃっていただいているように将来的に明らかに、なかなか教員の数が、どうしても定数が決まってい揃わないので今のうちに何とかしましようということですよ。だから、全然いいんですよ、気遣ってくれて「課題」を消しますとかじゃなくても良いのですが、もう少し、学習活動頑張っているのにこの文章をこの3行読んだときにものすごく腹立たしかったんです。学習活動をちゃんとしてると、部活動やって、合同で一生懸命やっているよと。これを課題と捉えられることにもものすごく憤りを感じたというか、これが教育委員会のやり方か、とか少し思ってしまったので、この3行をもう少し表現を、全然「課題」という言葉を使っていたくのは構わないのですが、学習活動で課題が生じているってどんなくそぼろな学校なおいって、ちょっと思われかねないなと、すごい思ったのですみません。単になんか、いちやもんつけているように感じられるかもしれませんが、現場としては、そんな感じがして、我々職員が責められるのはちょっと辛いなと思ったので、すみません、言わしてもらいました。

(教育長) ありがとうございます。ここでの我々が思っている課題は、校長先生をはじめ、学校の職員の方が、本当に一生懸命東中の学校教育目標に沿って、子どもたちのために頑張ってくれていることは、大前提です。ただ、学習活動も部活動においても、そうした先生方の頑張りだけではいかんともしがたい課題ということでもあります。例えば学級であれば、文科省が示している1つの目安、基準として、全学年でのクラス替えまたは学級を超えた集団編成、少なくとも1学年2学級以上と同学年に複数教員という基準もあります。あくまで文科省が示した基準ですが。ただ、先生が幾ら頑張ってもいかんともしがたい学習活動や部活動で言うと、やはり子どもたちが将来、社会人として、そこを見越したときに、やはり強くたくましく、生きていつて欲しい。その中では、やはりより多くの仲間と認め合ったり助け合ったり、その中で切磋琢磨する、または、多様な考え方や価値感に触れることで、子どもはより色々な感性、心も豊かになってくるのではないかと、そういう協働的な学びの中で、社会に出たときのやはり社会性、協調性、これをしっかり伸ばしていきたいと。部活動もやはり、その集団スポーツであれば、レギュラーぎりぎりの人数では、やはり多くの中でもまれて、対外試合でもより高いレベルの中で刺激を受ける、そういうことが今の人数が減少して中での課題、いかんともしがたい課題、これをやはり解消していくためにというところのものが大前提というところで、ただ、今議論していただいているこの課題という言葉であったり、やはりこう表現することによって、先生方の頑張りがここで読み取れないということであればこれは、より良い言葉に協議していただけたらと思います。

す。繰り返しになりますが、先生方の頑張りがあって、でも、いかんともしがたい人数減による今の教育課題、そこをより良くしていきたいというところの、考え、思いというかそれがこの表現に、表れているというところをご理解いただきたいというところでございます。

(委員) 表れてれていますか。教育長がおっしゃるようにこの 3 行で我々の努力が表れているのか。

(教育長) だから、そこは、課題という前提において頑張っているというところをもっとここに入れていくということも協議していただければと思います。ただ、我々が言っているこの課題という言葉については、先生方の頑張りが当然踏まえていく中での、いかんともしがたい課題というところでの意味であるということです。決して、今校長先生がおっしゃってくれたような、学校の頑張りを否定するということではないというところであります。だから、文言については、委員長中心にもっと議論していただいて、より良い表現にしていいただければと思います。

(委員長) 現状は非常に先生方が頑張っている。それがそこに課題としたために、今の学校を否定されているような感じで捉えられるというふうなことがあるということだと思えます。今、色々工夫してやっていると思うのですが、もうどうしようもない、人数が少なくなったりとか色々なことによる教育活動の停滞とか色々なことが起こるということで、この (1) は書かれていると思います。

(委員) (1)の冒頭 3 行は、以下 2 段落目から具体的に書かれていることを集約して、概要を書かれているようなところですが、この 3 行だけを見ると、後ろを見るときはほどなと思いますが、確かに委員がおっしゃるように、捉え方次第では学校が努力してないみたいに見えたりもするので、概要になっているこの 3 行を削除と、途中そういうお話もありましたが、なくても、次からちゃんと生徒数のことから書き起こしているのだから、この 3 行を削除した方が良いのかなとも思います。

(委員長) 先ほどもそういうご意見がありましたが、この 3 行によって今現在、各学校で頑張ってくださいということが、否定的に考えられる危険性があるということで、この 3 行を削除したらどうかというご意見に関してどうでしょうか。4 行目からは具体的に書かれています。

(委員) もう 3 行は削除しているものだと思って話を聞いていたのですが、それでもまだ続いていたので、学校が頑張ってくれているのはよく分かります。だから、最初に事務局の方から 3 行を削除してはどうかということで、それで話が進んでいるのかなと私は思ったので、言おうと思ったのですが他の委員に言っていただきました。

(委員長) この 3 行を削除するという意見について他の委員さん、いかがでしょうか。では、この 3 行は削除するという方向でいきたいと思います。4 行目からその提言の理由の (1) ということで具体的に入っていくということになります。

次に鴨島東部地区における小中学校の現状と課題という文言についてはいかがでしょうか。色々意見がありまして、東部地区における小中学校の現状分析、今後の展望とか、今後の課題とか、そういう意見もありましたが、いかがでしょうか。

- (委員) この3行を除くのであれば、現状と課題でも、良いのではないのでしょうか。
- (委員) 現状と課題が良いのではないのでしょうか。学習活動が課題と言われると、何をしているのかと思われかねないかと。
- (委員) 現状と課題と言うと、並列だと思うので私は今後の課題というふうに「今後の」を付けたほうが良いのではないかと思いました。
- (委員長) 「現状と今後の課題」との意見ですが、他の委員さんいかがでしょうか。
- (委員) 現状の中に課題が認識できるから、早急にこの四角の中の結論を、ということになるのではないかと思います。
- (委員) 委員がおっしゃるように、課題というのは、今現在の方に注視してしまうから、これから向かう方向に、やはり私は目を向けた方が良いと思います。
- (委員) 先ほどから言っている現状なのですが、学校現場で現状と言うとやはり学校の教育活動であるとか色々なそういう現状を想像するのですが、今回のこの現状というのは、人数の推移ですよね。減少しているという状況から生まれる課題なので、現状という言葉を残した方がいいのか。それか、上に使われている児童生徒数の減少による今後の課題みたいな、もうそこに入れてしまうかというのを少し感じました。現状と課題ということで、現状は、もう生徒数、学級数のことが、現状なんだというところですよ。子どもたちの様子とかではなくて、なのでその現状という言葉の含んでいる中身は、もう人数の減少というところで、認識は合っているのでしょうか。そうするとその現状という言葉も、少し具体的に変えたらいいのか、もう、「現状」を除けて違う言葉にするのが良いのかということも少し考えました。だからといって何を入れるかということ「人数の減少による」という言葉を入れたらより下の方も読みやすいのかということも少し思いましたが、どうでしょうか。
- (委員) 賛成です。もうむしろ「現状」を削除してしまって、児童生徒数の、あるいは生徒数の減少による課題とすれば、いかがでしょう。
- (委員) 素晴らしいと思います。ぜひそれをお願いします。
- (委員長) 現状を削除して、人数の減少による課題というふうに書きかえたらどうだろうかというご意見ですが。
- (事務局) (1)で中学校のことで、(2)で小学校のことを分けて書いてはどうでしょうか。
- (委員) (1)のタイトルを「鴨島東中学校の生徒数減少による課題」として、(2)を作るのであれば、提言のところをなぞることになりますが、「牛島小学校及び森山小学校について」でも良いのではないのでしょうか。いかがでしょうか。
- (委員長) 中学校と小学校とを書き分けるわけですね。
- (委員) (1)の方は、「鴨島東中学校の生徒数減少に伴う課題」、(2)の方は「牛島小学校及び

森山小学校について」でいかがでしょうか。

(委員長) 小学校と中学校とに分けて、という意見ですが、ご意見いかがでしょうか。

(委員) 尋ねられていることが、鴨島東部地区における小中学校のあり方なので、提言の方も2つに分けて書くし、提言のところも小中まとめずに(1)と(2)で書き分けたら良いのかなと。

(委員長) 提言が中学校と小学校とで分かれているので、理由も中学校と小学校に分けて書いたらどうだろうかという意見ですが、いかがでしょうか。

(委員) そうしてしまうと今、現状の(2)、(3)というのは中学校ことばかり書いているような感じがするんです。なので、(1)で中学校について書いたら、1)とか①として、②を再編に関するメリット・デメリット、③を望ましい教育環境とするなどして、中学校の中での問題点とかを書いて、保護者の意識もこれは中学校のことでしょうか。(1)として中学校のことについて、大きく(2)として小学校のことについて、あとを①②とかにしてしまうと現状の(2)(3)(4)は中学校のことのみ書かれているので、まとまりがなくなってしまうのかなと思いました。

(委員) 要するにどこかで小学校の問題については、先に結論を出して、後、中学校のことだけを語るというスタイルをとった方が良いわけですね。だから例えば、(1)鴨島東中学校の生徒数減少による課題として、(2)で小学校2校のことを書いてそこにもうすでに結論を出したら良いわけですね。そこに結論を書いたら、必要はないと考えるという結論を出しているから、(3)以降は、その中学校のことだけを、課題は小学校2校については今議論しなくても良いという結論をここで書いたから、(3)以降は中学校のことについてだけ書けば、構文的には、大丈夫ですね。

(委員) 今、現状そうなっているので、(1)にするのであれば、中学校のことばかりまとめてしまって、(2)として小学校について書いて、でも大分離れるのですが、(1)は中学校のこと、(2)は小学校のことで、(1)の中に今書いている現状とか、あるいはメリット・デメリット、望ましい教育環境、保護者の意識として、(2)は本当に提言と同じになってしまうかもしれないですが、牛島小学校及び森山小学校についてということで、少し離れてしまい、中学校の方は長くなってしまっているのですが、そのように大きく括ってしまったらどうかなと思いました。

(委員長) 提言の中で(1)は中学校、(2)は小学校、で括るということによろしいでしょうか。その提言を受けて、提言の理由として、主に東中学校のことが出てくるわけですね。そこで、提言の理由としては、(1)とかで東中学校についてまとめるということによろしいですか。

(事務局) 今のお話を整理させていただくと、(1)は「鴨島東中学校について」というタイトルで、「鴨島東中学校の生徒数の減少による課題」が①。②が「再編に関するメリット・デメリット」、③が「望ましい教育環境」、④が「保護者の意識」、それで最後に、(2)で「牛島小学校及び森山小学校について」でよろしいですか。

(委員) すごく細かいことですが、タイトルがまとまりつつあったので、(1)の「東中学校

の生徒数減少による課題」ではなくてそこに「今後の」を必ず入れていただけたらと思います。

- (委員長) そこまでそれでよろしいでしょうか。
 そしたら提言を1番に出してというふうなご意見もありましたが、この点に関してはどうでしょうか。提言を出してその次に、提言の理由を色々書いていただいているのですがいかがでしょうか。
- (委員) 提言の四角に囲ってある中の1ポツの後ろに提言の理由を書き、2ポツの後ろに小学校のことを書くということですね。提言は答えと解説みたいなものだから、まとめて答えを言って、それぞれにつまびらかにしていくという順番で、良いのかなと思います。
- (委員長) 提言の内容を1番に出して、その理由という順番の方が読む人にとっては分かりやすいのではないかとはいいます。中学校と小学校に分けて書くということでもよろしいでしょうか。
- (委員) 書き方が私も少し分からないのですが、「提言する」という下の(1)(2)は必要ですか。いきなり「1 提言」としたら駄目なのでしょうか。
- (事務局) 問題ございません。
- (委員長) (1)、(2)を削除ということでもよろしいですか。
- (委員) 提言内容でどなたかおっしゃったのですが、望ましい教育環境の前に、「より」という言葉を付けるというのはどうなったんですか。
- (委員長) 入ります。
- (委員) 委員がおっしゃった生徒の肯定的な意見というところ。保護者の意識だけは入っていますが、そこに子どもの意見を入れたらどうかなど思いました。
- (委員長) 保護者の意識だけは入っていますが、そこに子どもの肯定的な意見を入れたらどうかという意見もありました。確認することはそのくらいでしょうか。
- (委員) 保護者の意見と子どもの意見と、何か資料として、簡単なエビデンスになるような、最初の頃お示しいただいた資料を簡単にしたようなものでも、エビデンスという形で付けておいたらいいかなと。
- (委員長) 子どもの意識というところで、資料を出していただくようにします。
 最終段階になっておりますので、しっかりとそれぞれご意見いただければありがたいです。
- (委員) 一番最後の委員からの意見というところで、かいつまんで言うと、こういう意見だったかもしれないですが、「1学級だけでは、デメリットのほうが大きい」というのは少し説明不足というか、下の方では「1学級では、人間関係が固定化する」といった

ような理由があれば分かりますが。もう 1 点はその他のところの、「教員が意欲を持って働ける学校を目指して欲しい」というのは、これは今後統合してもということですよ。多分こういう意見が出たと思いますが、ここだけ切り取ると、比較してしまったりするので、何か言葉を添えて欲しいなと思います。

(委員長) 確かに文字を削ると伝わらない部分がありますよね。少しこれを足して、より伝わるような言い方で言っていただくと良いと思います。
ほか、気が付くことがありましたらお願いします。

(委員) 統合時期ですが、何年先というような具体的な方向性までは書けないでしょうか、そのような決定権はありませんよね。

(事務局) はい、それは次の段階でということになります。

(委員) できるだけ早期にということ、前回も少し言ったとは思いますが、保護者の不安が、統合の方には行くだろうということはもうもちろん分かっているけれども、いつなのかかなり心配なところだと思います。いつと言っても東中学校には本当に大変申し訳ないのですが、やはり保護者の中には、統合が近いのであれば一中の方に行って進学を考えたりとかそういうふうな感じもないことはないです。そうすると、いつというのが、早く分かれば分かったで、それはまた一中に行くのか分からないけど保護者の中で、どうしたらいいんだろうという基準が今すぐ分からなくて、実はまだ保護者にどちらに進学しますかという話題は全然振ることができていません。この話もあるので、それを聞くのは、私も説明もできないし、それは分からないけどどうしますかみたいなことになるのでその話ができてないので、いつになったら、いつ統合するというのが分かるかということもまた、もし見通しがあればなのですが、今聞いてもそれを保護者に即伝えるのは難しいと思います。

(事務局) 今現時点でこの場でいつというのはなかなかお答えはしにくいと思いますが、今後のスケジュールで言いますと、まずはこのあり方検討委員会です。この議論が終結し、提言をいただくまでは、事務局としても何も準備等ができません。提言をいただいた後においては、やはり合議体である教育委員会の方に諮っていく必要があると思いますので、最終的には教育委員会に諮ってその方針を決定いただくという形にはなりますが、やはり教育委員会に諮る上でも、こういった提言がありましたというだけではなかなか資料もございませんので、提言に加えて、色々保護者の意見であるとか、そういったものも添えて教育委員会に諮るというような手続きが必要となってくると思います。ですので、それが何月になるのかというのが、少しここも今まだ終結には至っておりませんので、それによって、多少時期が影響されるのかなというふうには考えておりますが、今、委員おっしゃっていただいたように保護者の方が心配されている部分もあると思いますので、理想はその次の中学校の進学を決定される前に、そういった情報が伝われば良いのかなというふうには考えておるところですけれども、それが発表できる時期によって、場合によっては統合の時期というのも、極端に言えば、後ろに決定がずれるほど、それも影響してくるので、そこら辺はその状況を見ながらというふうにはなってくるかと思えます。

(委員長) まずはこの会議で、次予定されています、第 4 回の会議がございます。そのときには皆さんの意見の基に、この提言の作成ができればいいかなと思っています。それが

できますと、教育委員会に提言ができ、それから教育委員会も動いていかれると思います。

(委員) 通学体制というところなのですが、そもそもアンケートの時点で、東中学校区の生徒が第一中学校舎に入るというのを大前提として、作っていると思います。

なので、あり方検討委員会というのは、大前提ですけど、東中そのまま存続するか一中に入るかということだけですね。

(事務局) 選択肢としては2つあるということです。

(委員) 要は、その校舎の中に入るということですか。なるほど。わかりました。前回でどのような形で統合になるかというよりも、統合するかどうかを決めるということですね。

(委員長) そうです。再編が決定してから新しい体制へと進めていくと。

(委員) けれども校舎は第一中学校で決まっているということですね。

(委員長) 規模から言いますと、どうしてもそうならざるを得ないかなと思います。他の委員さん、どうでしょうか。

(委員) 前の会とか最初の会議で申し上げたように、今、委員がおっしゃっている一中に通うありきではなくて、新しい鴨島の中学校を1つ作るんだと。ただ、物理的な事情とか、予算、経済的な事情を考えると、結果そうなったというなら分かりますが、この提言をする場では、あくまで、新しい鴨島の中学校を統合して1つ作るんだという前提で議論を、先ほどの協議の中で、だから今後できる準備委員会の中で、東中学校の生徒のストレス、第一中学校の生徒のストレスとか、いろんな課題を考えながら、その結果として一中に行くんだよというふうなスタンスで、これも臨んでいただきたいなと思います。そうしないと、結果的に東中学校の生徒が一中に通うようになるということで、極端に言えば東中学校を廃止して皆一中に行けよというふうな、そういうスタンスで臨むのではなくて、今新しい鴨島の中学校を1つ作る、結果としてその場所が今の第一中学校の位置なんだよというスタンスでは臨んで欲しいということで私、前にも発言させていただいたと思います。今、委員のおっしゃることもそういう意味ではないかなと思いますが、ここの提言の、委員会のあり方という、その基本スタンスも結果的に色々と交通の便などの資料としては、一中メインに出てきますけど、それはあくまで今後の、統合するときの1つの目安として経済的な理由であるとか、市の位置的なことを考えると、現状のとこかなというのはあるかもわかりませんが、そうではなくてやはり、両方の中学校合わせて、新しい中学校を作るんだという基本スタンスでは、臨んで検討していただきたいなと私は思います。それともう1つ、もう非常に事務的なもので先ほど提言書の、文章の最初の案のところ令和6年7月12日云々とあって、依頼を受けた次の項目についてというこの次の項目の2つを外すということでしたが、そうすると次の事項について、依頼を受けた事項について、委員会として提言すると言った場合に、先にこういう提言依頼を受けましたという内容が公表する場合出てこないという依頼を受けた事項が分からないので、私はこの(1)(2)のところは残した方が提言書としては、こういう項目で提言依頼があったから、次の四角の中の提言をするんですよという、単に事務的な表現だと思いますが、私はそう

という感じがします。

(委員長) 先ほど (1)、(2)は削除するというにしましたのですが、そこは、必要ではないかなというご意見いただいたのですが、事務局どうでしょうか。

(事務局) 1回目の会議のときに提言依頼をお渡ししておりますが、(1)、(2)の2行だけではその依頼したときの依頼内容というところまでは触れられておりませんので、例えばですが、この提言書に添付資料として今、資料1から4がございますが、その中の1つとして、提言依頼書の写しを付けるというような形はいかがでしょうか。

(委員) 公表する際に、そこに付いてますという、先程言いました依頼を受けた事項というところに、それがどこに載っているかというのが分かるものがあればそれで結構です。

(事務局) その方が依頼内容全文が分かりますので、その写しを添付資料として付けるようにいたしましょうか。

(委員長) どうでしょうか。よろしいでしょうか。

もう1点、新しい学校というふうな位置付けということのご意見もございましたが、前回にもそのようなお話があったと思います。

その新しい学校の体制ということについては、今後そういった準備組織の中で、色々と新しい学校のあり方が検討されていくと思います。委員の皆様のご意見が反映できますよう、そういうふうな新しい学校の中で出せるようにして欲しいなと思っております。よろしく願います。

他にどうでしょうか。よろしいですか。

(委員) 私もう特段ありません。いろいろ勉強させていただいたと思っております。ありがとうございます。

(委員) 私も勉強させていただいております。ありがとうございます。

(委員長) たくさん委員の皆様からご意見をいただきました。この予定では、最後の提言書の取りまとめについてという会を以て、ここで完成という形になると思いますが、今いただきました色々な意見を、次回の会議までに、また事務局の方で、反映していただいて、それをとりまとめて、次回協議をすると、最後のまとめをすると、いうふうなことでいきたいと思っております。事務局はどうでしょうか。

(事務局) それでは今、委員長からお話があったのですが、本日会議でいただきました委員の皆様からのご意見を基に、再度この提言書案は修正し、委員の皆様にはまた次回会議までにこの提言書をお送りいたしますので、次回は最終取りまとめということになるかと思います。事前にご意見いただいた方が良かったこともありましたので、次回につきましては事前にお送りしまして、会議までに何か気になるところは、事前に事務局までご連絡いただければと思います。また次回の日程ですが、保護者の方も気にされている方がいらっしゃると思いますので、できればタイトな日程になりますが11月の上旬で調整をさせていただければと考えております。こちらの都合で申し訳ありませんが、第1候補日としまして、11月6日(水)の午後7時、もしくは、11月7日(木)の午後7時、この両日のどちらかで調整したいと考えております。委員

の皆様、ご都合の方はいかがでしょうか。

(委員長)

11月6日、11月7日ということで案が出されましたが、どうでしょうか。両日も大丈夫ですか。

それでは11月7日(木)の午後7時ということで、開催いたします。

今日たくさん色々ご意見をいただきましたが、それについての最終のまとめという会議になりますので、先ほど事務局から連絡ありましたように、事務局の方から送付されると思いますので、気が付いたことや意見等ありましたら、事前に連絡していただいていたら会議がスムーズになると思いますので、その点よろしくお願いします。

他に言っておけば良かったなというようなことはございませんか。全員の委員さんにご発言いただいたと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは以上で第3回の吉野川市鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会の会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

最後に教育長からご挨拶を申し上げます。

(教育長)

【教育長あいさつ】

|